

- ScholarOne Manuscripts User Conference 2017 in Madrid 参加レポート
- ORCID 学協会コンソーシアム設立を目指して
- Emerging Sources Citation Index (ESCI) について

SCHOLARONE
MANUSCRIPTS™

ScholarOne Manuscripts User Conference 2017 in Madrid

S1Mの開発元であるClarivate Analyticsが世界中のS1M利用学協会・出版社・販売代理店に向けて毎年開催しているカンファレンスが今年は5月3・4日にスペインのマドリッドで開催されました。今年はアメリカおよびイギリスの学協会と出版社を中心に合計約100名、弊社からは2名が参加しました。

学術業界の潜在的なニーズを探る Ethnographic Research

カンファレンス最初のセッションはMODERN HUMAN社による基調講演「Undercover in the knowledge chain -Using Ethnography to anticipate future publishing needs-」でした。人々の行動を分析し将来的に起こり得る行動やニーズの変化を探るための調査「Ethnographic Research」の組み立て方と調査事例の紹介がありました。調査方法はShadowing（行動を直に観察）、Diary study（ビデオなどで記録）、インタビューなど様々な手法があるようですが、同社では実際の行動を分析できることからShadowingとDiary studyを主に使用しているそうです。調査事例では、化学分野の研究者に対してのリサーチ結果について紹介され、研究者は一般利用可能な記事やデータの検索ツールには満足している一方で、最新情報を得るためのリソースが不足していると感じているようです。そして最後に、手法をきちんと組み立てて調査を行えば、将来的な学術業界のニーズを探り出して一歩先を進むことが可能であると述べていました。

不正査読の抑止につながる オープンピアレビュー

オープンピアレビューのセッションでは、まずClarivate AnalyticsのプロダクトマネージャーChris Heid氏から説明がありました。近年世界中でオープンピアレビューが注目されつつあり、ジャーナルでのオープンピアレビューの採用が年々増加傾向にあるようです。また、同氏よりエルゼビア社が発表しているパイロットスタディ

パイロットスタディの内容

論文公開時に査読結果の公開を義務化。ただし、査読者情報を公開するかは査読者個人の意向に沿う。

パイロットスタディの査読者へのアンケート結果

査読結果の公開は 査読結果に影響しなかった	95%
査読者名を 公開することに同意した	45%
査読者名を公開することに 反対したが、次回査読時は同意する	35%
次回査読依頼を受けても 承諾する	98%

Bahar Mehmani, PhD: Is open peer review the way forward?, September 22, 2016.



の紹介がありました。

結果をみると海外の査読者は情報開示に対してさほど抵抗がないのかと思われます。

その他にも、BMJ Publishing GroupおよびRoyal SocietyよりS1Mでの運用事例や査読状況などの発表がありました。BMJ Publishing Groupでは現在3ジャーナルでオープンピアレビューを採用していて、S1Mのスコアシート画面上で査読者へ署名を求め、論文が採用された際に原稿と合わせて査読結果を公開しているようです。また、英国のRoyal Societyもオープンピアレビューを採用していますが、透明性、質の向上のメリットが得られる反面、記載内容に慎重になり時間がかかるデメリットを感じていると述べていました。

ここ2～3年で掲載数が激増！ プレプリントの動向

プレプリントのセッションでは、Crossref、アメリカ化学会、bioRxivが登壇し、まずCrossrefから昨年よりプレプリントへのCrossref DOI付与が可能になった旨の案内がありました。ただし条件として、プレプリントにDOIを付与してその論文が公開された場合は、公開論文のDOIへのリンク付けが必須となっているようです。アメリカ化学会からは自誌のプレプリントプラットフォームchemRxivを近日リリースするとの案内がありました。この2～3年、arXivなどのプレプリントプラットフォームでの原稿掲載数が増加傾向にあり、一般的な査読よりも幅広くフィードバックを得ることができるなどの理由からchemRxivのリリースに踏み切ったようです。bioRxiv

の発表によると、同プラットフォームは現在Life Science分野で最大のリポジトリとなっているようです。また、現在100以上のジャーナルと連携し、ジャーナルからのオファーに著者が同意した場合はbioRxivからジャーナルへ容易にデータを転送できるようになっているとのことでした。

ジャーナル分析に役立つ Cognos Reports 世界での査読状況の統計データ

Clarivate Analyticsより、現在世界で運用されている約6,000のS1Mサイトの査読データを抽出し統計した結果が紹介されました。過去5～6年のデータを抽出した結果、以下のような状況になっていたようです。

2012～2016年の平均査読日数は22.6日でしたが14日、21日、28日に査読提出数が少し増えたようで、これは期日による

リマインダーが送信されるタイミングなどが理由として考えられるであろうとのことでした。また、2016年の査読依頼数および提出数とも最も多い国はアメリカが圧倒的で、次いでイギリス、中国の順となっていたようです。

様々な機能向上を予定 今後のバージョンアップ情報

今後のバージョンアップの目玉として、昨年の著者画面の大幅変更を引き続き、今年は査読者、そして来年は編集委員画面のレイアウト変更が予定されています。査読者画面の変更点については裏面で詳細をご紹介しますのでご覧ください。その他にも今後のバージョンアップでは、HTMLメール、共著者認証、査読データのORCIDへの自動取り込み、bioRxivとの連携など様々な機能追加や向上が予定されています。詳細の情報が入り次第、ご案内いたしますので楽しみにお待ちください。

おわりに

画面の言語切替機能が最も多く採用されているのが日本のようで、言語切替機能についての発表依頼が弊社にありましたため、当日は機能概要や利用状況、運用時のポイントなどについて発表しました。カンファレンス後にいくつかのジャーナルから問い合わせが届いているようで、弊社としても海外のジャーナル出版社およびKUDOSやPublonsなどの学術サービスの各ベンダーへプレゼンスを高める良い機会となりました。言語切替機能ご利用学協会様をはじめ、日頃S1Mをご愛顧いただいている皆様へあらためて感謝申し上げます。

2011～2016年の統計データ

査読者選出数	32,858,730
(1論文平均=約2.8 1サイト平均=約1,150/年)	
査読依頼数	28,002,553
(1論文平均=約2.4 1サイト平均=約980/年)	
査読承諾数	14,440,590
(1論文平均=約1.2 1サイト平均=約500/年)	
査読提出数	13,796,501
(1論文平均=約1.1 1サイト平均=約480/年)	

2011年と2016年を比較した “承諾率”と“提出率”

承諾率	2011年= 55.8%	2016年= 47.3%
提出率	2011年= 53.6%	2016年= 44.4%

※どちらも修正論文の審査記録も含む

ORCID 学協会コンソーシアム設立を目指して

ORCIDの目覚ましい躍進については、多くの学協会が御承知のことと思います。UniBio Press は国立情報学研究所が推進するSparc/Japanの支援により立ち上がった、我が国の学協会ジャーナル出版を様々な支援する活動を行う団体です。米国BioOneとの連携により、わが国の生物系学会電子ジャーナル6誌を国内外図書館に

販売し、各ジャーナルのパフォーマンスに従い、各学会へ購読料を返還しています。また、学術情報に役立つセミナーを行っています。さて、我々は2015年暮れにORCIDに関するセミナーを開催、ORCIDの動きに注目をしてきました。2017年4月、ORCID学協会コンソーシアム設立を目指し、学協会有志

の方々と検討会を立ち上げました。コンソーシアム形成の意義は、「より安価な会費」、ORCID活用のための情報、手段等をコンソーシアム内で共有できる点にあります。ORCID学協会コンソーシアムに興味を持た

れる方は、是非、下記URLをご覧ください。9月8日(金)午後1時より、日本教育会館において、「ORCID 我が国の学術情報、研究者 情報発信強化を目指して」を開催します。検討会サイトから、申し込みが可能です。



ORCID 学協会コンソーシアム検討会
<https://sites.google.com/view/orcid-j-society/home>

Emerging Sources Citation Index (ESCI) について

3月下旬に弊社マーケティンググループ岡田が米国・ペンシルバニア州フィラデルフィアにあるClarivate Analytics社(以後CA社)の本社を訪問し、同社が提供するWeb of Scienceへの掲載基準および審査プロセスについてデータベース運営責任者や論文選考担当者からお話を聞く機会がありました。

2015年よりCA社はWeb of Scienceに新たなデータベースEmerging Sources Citation Index (ESCI)を導入しました。ESCIは、Science Citation Index (SCI)の掲載基準には達していないが、ジャーナルとして国際的な基準に達しており、かつ今後、質の向上が見込まれるジャーナルを集めたデータベースです。このため、通常Core Collectionに掲載されているジャーナルはImpact Factor (IF)が付与されますが、ESCIは付与されません。しかし、各論文の被引用回数は確認することが可能です。

CA社の担当者によると、ESCIの導入により、Web of Science掲載のための審査プロセスに変更が生じたということです。

新しい審査プロセスは下記の通りです。

- ①創刊号公開以降はいつでも申請が出来る
- ②審査は申請後、3号の発行後から開始される
- ③最初はESCI掲載に向けた審査を受け、ESCI掲載が決定後に改めてSCIに向けて審査されます。

なお、ESCIからSCIへの審査期間は設けずに継続的に行うということです。また申請されたジャーナルはSCIに直接掲載されることはなく、まずはESCIに掲載されるということです。

ESCI掲載への審査方法は

- ①英文ジャーナル
- ②Peer Reviewシステムを導入している
- ③掲載論文をオンラインで公開している
- ④ジャーナル出版倫理に反するような不正が無い(編集委員リストの詐称や著者からの投稿料搾取等のいわゆるPredatory Publishingではない)

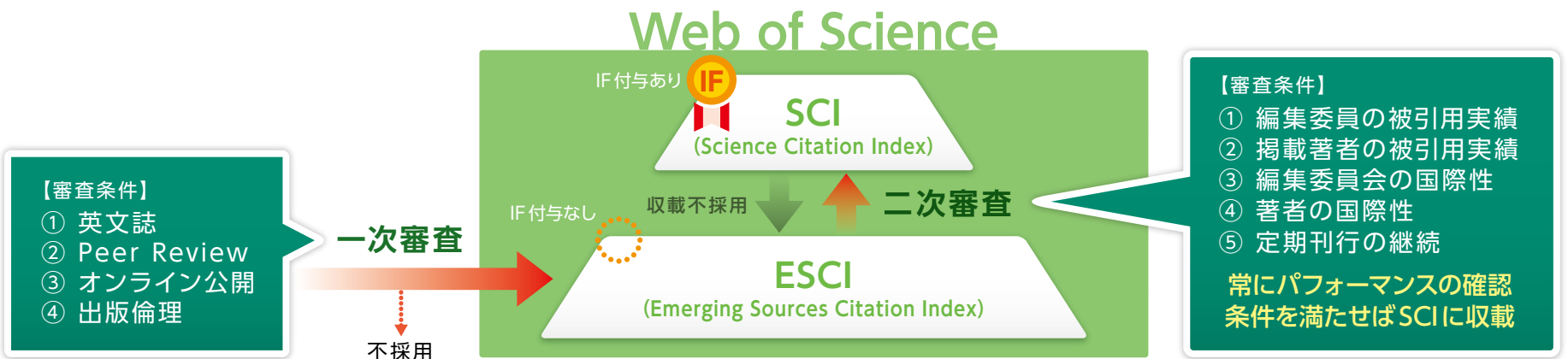
が条件です。CA社のジャーナル選考担当者によりま

すと、原則的には上記4条件を満たしているジャーナルはESCIに採用されます。なお、ESCIに掲載後は著しいパフォーマンスの低下や不正が無い限り、掲載は継続され常にSCI掲載に向けたパフォーマンス審査を受け続けるとのことです。その際は、どれだけ掲載論文が他の論文に引用されているのかが、重要な審査基準になります。

CA社は日本のジャーナルの掲載数が未だ少ないと考えており、戦略的にも日本のジャーナルをより多く含みたいと考えているとの意向を聞く事ができました。

弊社が立上げからサポートしている創刊間もないジャーナルについて相談したところ、ジャーナルの発行論文数が増えるにつれ、審査における発行論文の被引用状況が重要視されるため、まだ新しいジャーナルは、早めに申請を行った方が良いとのアドバイスをいただきました。弊社では、4月以降、既に3ジャーナルのESCIへの代理申請を行っています。

もしESCIやSCI等のWeb of Scienceの掲載にご興味のあるジャーナルがございましたら、弊社の営業担当までお知らせください。



編集後記

今号では、S1M開発元のClarivate Analyticsが5月に開催したS1M User Conference、Emerging Sources Citation Index(ESCI)など海外イベントの報告をメインにご紹介しました。S1M User Conferenceは、海外の学術トレンドをいち早く掴むための貴重な情報収集の場であり、国内ではなかなか知ることのできない情報が得られました。今後もこれらのイベントに積極的に参加し皆様へ情報を共有できればと思っております。ESCIへの搭載申請はImpact Factor (IF)を取得する上で必要な手続きとなりますので、弊社で手掛けている各種英文誌出版・編集支援サービスをご利用の学協会様には申請をお勧めしています。(各種手続きは弊社が代行しています。)IFを取得するコツやジャーナルのインパクト/ビジビリティを向上させる方法など、長年のClarivate Analyticsとのビジネス関係により弊社でしか持っていない情報もありますので、英文誌創刊をご検討の学協会様、または既に出版をされている学協会様はぜひ弊社の支援サービスをご利用ください。また、今回はORCID学協会コンソーシアムの設立について、日本動物学会の永井様よりコンソーシアムの内容や参加する利点を寄稿いただきました。メンバーになることで年会費が抑えられたり、他学会や最新の学術情報を幅広く共有できるようになります。ORCID導入をご検討の学協会様はぜひコンソーシアムにご参加いただければと思います。

S1M NEWS

2017年8月25日発行 第14号

発行 株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL. 03-3910-4311 FAX. 03-3949-0230
URL <http://www.kyorin.co.jp>

編集・制作・デザイン E-mail 株式会社 杏林舎
s1mnl@kyorin.co.jp

ScholarOne Manuscripts
version 4.21

査読センターがより使いやすく進化!

- ① 査読センターのデザイン変更
査読センターのインターフェースが著者センターと共通したデザインに変更されました。これにより読みやすさと分かりやすさが大幅に改善されます。
- ② サイト内での査読依頼への返答
査読依頼への返答を査読センター上で行えるようになりました。
- ③ PDF プルーフを査読画面に表示
査読画面のデザインが一新され、査読画面上にPDF プルーフと評価項目が並んで表示されるようになりました。
- ④ ドラッグ&ドロップでコメントファイルをアップロード
Wordなどで作成した査読コメントファイルをドラッグ&ドロップで簡単にアップロードできるようになりました。
- ⑤ 入力内容の自動保存
査読画面では入力内容が30秒ごとに自動的に保存されるようになりました。

